

## 第13期 第2回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和4年(2022年)8月8日(月)午後2時00分～午後4時00分  
場 所 国立市役所3階 第4会議室  
出席者 山谷会長、山崎副会長、内海委員、北委員、北村委員、楠田委員、高麗委員、田中委員、  
長嶋委員、山岸委員(委員は50音順)  
事務局 清水ごみ減量課長、豊島清掃係長、河内清掃係主査、新清掃係主任、菊次清掃係主事

### 【議事要旨】

1 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の行政による評価の(P.1(1)家庭系ごみの減量化・資源化 1)発生抑制～P.10 3)直す)資料について事務局から説明した。

【山谷会長】1)発生抑制(リデュース)①ごみ減量協力店の利用促進について、2020年度に4店舗減っており、恐らく新型コロナの影響も受けたであろうと思います。皆様のご意見をお願いします。

【北委員】実績のところ店舗数を5年間掲載いただいておりますが、全体のいわゆる分母に当たるような、可能性としてある店舗数というのは、国立市でどれぐらいあるのでしょうか。そういったものを載せていただけると、全体のうちのこれぐらいというのが分かってよいのかなと思いました。

【事務局】そうですね、正確な数値というのは手元にはありませんが、前回の審議会のときにもお話があったように、小売店が500店舗前後あって、そのうちの飲食店が150店舗前後ぐらいだったかと把握はしており、まだまだ増やせる余地はあるので、ごみ減量協力店の施策は維持していくものだと思います。

【田中委員】協力店の認証ステッカーみたいのをお店に貼られていますよね。それがあまり目立たないので、もう少し分かりやすく大きくして、「ここで協力店をやっています」のようなことができれば、もう少しお客さんのほうも入りやすいのかなと思いました。始めた当初からもう10年くらいになるので、ステッカーも少し色あせている感じでした。

【内海委員】マークがあまり目立たないというより、グリーンマークの件でもこのような話が後で出てきたと思いますが、そういった環境に配慮しよう、というマーク類がほとんど目立たない気がしています。ごみ減量協力店のほうに広報の面も少し協力してもらおう形でやったらどうでしょうか。

【北村委員】それぞれの小売店とか飲食店のお店に、こういうことを知らせる方法がすごく早いと思います。私たちの商店会も月に1回理事会もありますし、他の会議にも頻繁に行っているのです、そういうところでこういう推進のお店に登録することをもっと勧めるというのも1つかと思います。

お店の事業者の方達は意識がやはりすごく高いです。お客様もエコバッグも持ってきてくださります。なので、もう少しそういう面を上手にを使って広報したら、より多く広まるのではないかなという感じはしました。

【山崎副会長】おそらくまた昨年度に引き続き、様々な広報とか周知の仕方という点は、もう他のどの項目でも出てくるので、年間を通じて皆さんと議論しないといけないことだと思います。

ホームページの告知というのはあまり意味がなくて、そこをわざわざ見に行く市民はほとんどいないです。なので、やはりそこに誘導する仕組みをいかに作っていくかということが重要かと思います。

以前からやっているダイレクトメールのコメント欄にも、このごみ減量協力店のことを入れても良いと思います。また、今の環境にどうしても必要なばら売りや量り売りは先進諸国のスーパーでは当たり前になってきておりますが、そういったことを含め、「こんな良いことをやっているお店がいっぱい国立市にはあります」ということを、今後はツイッター等でいかに市民に周知していくかということだと思います。この点を皆様と議論できればと考えております。

【長嶋委員】ごみ減量協力店について、「協力店になる方はこのような条件をクリアすればこういうことができますから、用紙はここにありますが、自分から申し込んでください」のような印象を受けました。

【山谷会長】こういうメリットがあるというところを示せると良いと思います。

【長嶋委員】なので、受け身で待っているのではなくて、「こういう協力店のこういうものがあるから、どうぞ小売店の皆さん、どんどん自分をアピールしてください」のような形があってもいいのかなと思います。

【山谷会長】こういうお店を行政として発掘して、そして広報でもホームページでもその他の媒体でも、何かあれば利用して発信していく。これが最大のメリットになると思います。環境にいい取組をしているお店があったので、じゃあ、ここで買物をしましょう、という形で環境にいい取組のお店で買物をすることで、参加ができるという形に持っていけるといいと思います。

【山崎副会長】協力店がない地域もありますね。ほとんどない地域があります。

【山谷会長】そうですね。少し偏っているところがあります。

【北村委員】お店の方達もあまり知らない方が多いのではないかという気がします。うちは旭通りのほうになります、特に協力店の話は上がりません。あまりそのことを店主達の話で話題にはならないです。なので、そこでやはり店主の人たちがもっと話題になるような広報にしていけば絶対増えるし、興味はみんなすごくきくとあります。

【山谷会長】そうですね。そのような環境の良い取組をしているお店が入っていきやすいように、参加店に働きかけるといことですね。それにはもう漫然として取り組むのでは駄目で、例えばそういうメッセージを発信するようなポスターを作って、これを掲示してくださいというような形であるのが良いと思っています。

レジ袋の削減、マイバッグの持参はもうかなり進んでいると思いますので、これからは食品ロスの削減というところで、また別の一つのプログラムとして、立ち上げもされていますので、そういうことをお店に協力していただくという形で、消費者の方々に伝わるようにしていくということも必要だと思います。

審議会の評価としては、『認定店における取組の強化、新たな認定店の開拓に引き続き取り組んでいただきたい』という評価でいかがでしょうか。

【山谷会長】②マイバック、マイボトル等の促進について、ご意見をお願いします。

マイボトルをお持ちの方もおられるかもしれませんが、自宅で充填して持ってこられたり、途中で充填したり、自分のリユース容器に充填するという形でお店を利用する、となりますとお店にまず充填機がないといけないと思います。

充填機のあるお店は、皆さん利用されていますか。お店としてあまりなくて、販売用かだと思います。一応お客さんも利用できるようにはしておりますが、これを買って欲しくて、利用してもらう用のデ

モンストレーション用に置いてあるのではないかと思います。現状、実際に小売店で充填機のあるお店は少ないです。

【山崎副会長】日本は少なく、海外はかなり進んできています。大学でも、グリーンユニバーシティというところは、各学生にマイボトルを持ってこさせて、ペットボトルを売らないという大学も非常に増えています。だから充填機を必ず置いています。

【山谷会長】 どうして日本は遅れているのでしょうか。

【山崎副会長】 それはペットボトル文化が根づいているからです。当然もう安く買えますので。

【山谷会長】 どうしてペットボトルは駄目なのでしょう。

【山崎副会長】 いわゆるプラスチック原料がどんどん枯渇していっている中で、ペットボトルは比較的リサイクルできる材料ではありますが、やっぱりその労力にもものすごくエネルギーがかかるのではないかと思います。

【山谷会長】 ごみ収集にはコストもかかりますね。

【山崎副会長】 マイボトルが増えると、環境にもものすごく優しくなります。

【山谷会長】 そういふことですね。ですが、ペットボトルは便利でもありますよね。

【山崎副会長】 もちろん。衛生的にいいという考え方もありますね。ただ、これはマイボトルを持って来られている方の傾向としては、ご自身でお茶を作られる、家庭での浄水器の水を充填される方です。こういう意識の高い方が大抵マイボトルを持っている傾向はあるようです。

【内海委員】 鎌倉市かどこかと思いますが、観光の都市だと、まちを挙げて、ペットボトルなどが捨てられていること自体があまりきれいじゃないということで、給水サーバーか何かを無料でまちに置いて、ボトルで給水できるようにしたというニュースを見たような気がします。

国立は観光都市ではないので、そこまではできないかなとは思いますが、スターバックスだとタンブラーを買って、持っていくと容器代を引いてくれるというのがあったと思います。そのタンブラーも結構素敵で、ボトルを持ち歩くこと自体がちょっと楽しくなるな、おしゃれになるな、という印象を受けました。確かにボトルを持ち歩くのは重いので、持って楽しいなというボトルじゃないと、使用者側にとっても、難しいなと思います。

【山谷会長】 ありがとうございます。国立市役所に給水機、見かけたような気がしますけど、ありませんでしょうか。

【事務局】 あります。あちらで補充している人は結構います。

【山谷会長】 おられますか。そういう事業所からまず普及していただけるとありがたいですね。そして、民間の業者さんで、無料で設置してあげるといふのが、埼玉県あたりの企業があるらしいです。なので、そういう事業者と行政、国立市が連携をしていふのも一つの普及のきっかけづくりになるのかなという気もしました。

【山岸委員】 今の内海さんのお話を聞いて、例えば、ウォーターサーバーや水飲み場とかがありますよね。どこにあるのかが地図で分かたりするアプリがあると嬉しいです。ヨーロッパではあるというふう聞いたことがあります。どこに行ったら冷たい水が、水が入れられるかというの分かるような仕組みだと、ペットボトルで買わなくて水にしようという選択肢も増えると思います。今ある例えば北市民プラザか、公園とかには水があると思いますが、そういうところを地図としてまとめて、ごみ減量課で出すなんていうことは可能ですか。

【山谷会長】そうですね。もうちょっと普及してきた段階になるかもしれません。そういう情報を行政が提供するという事は、まず一番重要なことですよね。どこにあるかが分からなければ利用もできないということですので。

だから、まずある程度普及させるというところが非常に重要ですよ。リユース関係ではもう民間と提携しておやりになっていますが、民間の事業でもそういうことをやっているところがあるので、マイボトル給水機普及についても、民間の活用ということもぜひ考えていただきたいです。

【楠田委員】国立市で導入したらどうですかというつもりは全くありませんが、ペットボトルを使った水道水などがアメリカでは結構はやっていて、ペットボトルがごみとしてのリサイクル率も低いことから、環境問題に影響を与えているようです。

それで、ずいぶん前になりますが、アメリカのシカゴ市で、ペットボトルに水道水を入れて、コンビニで売るというのが、大変に罪なことであるということで、当時のシカゴ市長さんが、ボトルにウォーター税という相当高い税率の税金をかけたという事例があって、学生に教えています。

ただ、そのときに実は同じような飲物ではありますが、ペットボトルに入っているミネラルウォーターについては課税対象から外れて、コンビニなどで売ることができるというのがシカゴ市の事例になります。ミネラルウォーターというのは、どこかの山奥から供給を受けて飲むものですが、そこまでマイボトルを持って行って給水をしてもらって詰めるということ、まれにやっている例もあると思いますが、基本的には難しい。一方で水道水というのは、一般の家庭どこでも水の供給を受けることができる。そのことさえ分かっていたら、ペットボトルを買わなくても、マイボトルに入れば良いのです。それをアメリカのシカゴ市民というのは、便利さのあまりにコンビニでボトルウォーターという、中身は水道水のものを購入して、環境問題を引き起こしていたという状況になります。

そういう事例だったので、山岸さんが先程おっしゃったように、どこに行けばおいしい水なり便利な水供給源があるのかということをもっと情報開示すれば、このペットボトルの問題、無駄な利用をしてしまうようなボトルの問題というのが少なくなるのではないかなというのが、アメリカのシカゴの事例からも分かることかと思えます。

【北委員】私は3段階評価のところにも書いていただいている、結局はまだまだごみ袋に関しては、家庭で小さいごみ箱のところに使われている事例というのが多いと思います。あとは、私なんか、まだどうしても缶とか瓶を少量出さないといけないという時に、ビニール袋を使ってしまうことがあるので、やはりちょっとそういった出口のところを変えていかないと、結局は需要があるために減らすというのがなかなか進まないのかなと思うので、ぜひこの部分をもっと大々的に進めていただきたいなと思いました。

今ちょうどごみの分け方、出し方カレンダーを開いて、一部、缶とか瓶・ペットボトルは籠に入れて出すというふうに案内が書かれているものの、こういったところの出し方のところはもう少し変えても良いと思います。実際、まだごみステーションとか見ていると、袋で出している方が多いように思うので、もっと改良させていけるのかなと思いました。

【内海委員】うちのところは、資源ごみは籠でやるようになってきています。ですが、資源ごみを出すのにわざわざビニール袋に入れてきて、ビニール袋ごと大きな籠に入れる人がいます。それで、清掃車が行った後に、そのビニール袋がそのまわりに散乱してしまっています。なので、ビニールに入れないでくださいと告知しないと、そうやってしまうのだなと少し思いました。この告知は必要かなと思います。

【山谷会長】籠やコンテナで袋を使わないで出すというのは、市のほうでは周知されているのでしょうか。

【事務局】そうですね。ごみの出し方カレンダーのほうには書いてありますが、絶対にというような書き方ではありません。

【山谷会長】できればということですね。

【事務局】そうですね。可能な限り籠で出してくださいという形にしています。

【山谷会長】もう、可能な限りという記載を取って、こうやってください、と言ったほうがいいかもしれないですね。その分だけプラスチックを減らすことができるわけですから。

審議会の評価としては、『コンビニでのマイバッグキャンペーン実施はマイバッグ持参に有効な取組みであり、またマイボトルのほうについては、民間業者と連携するなど、マイボトルの利用促進に向けた具体的な取組みにも着手していただきたい』という評価でいかがでしょうか

【山谷会長】③厨芥類の水切りの促進について、ご意見をお願いします。

【山岸委員】駅街頭キャンペーンを実施し、10回やられたと書いてありますが、国立駅だけでしょうか。あとはごみ減量課の職員がやっているのか。どういうふうなところを見れば分かるのか、やった報告とかはあるのでしょうか。

【事務局】国立市では割と力を入れてやっていたとは思っております。

主に夕方時間帯に駅に立って、ポケットティッシュや雑がみ袋、生ごみの水切りネットを手渡しして配りながら、「ごみの減量にご協力をお願いします」とお声がけをする活動です。大体月に2回ぐらい、年間20回ぐらいを目安に予定を組んでやっておりました。

ただ、今回コロナの感染拡大もあり、その状況により自粛したこともあった関係上、昨年度は10回にとどまったということで、例年より少ない実績になります。

時間が大体夕方なのは、人通りが多いのと、職員があまり昼間は留守にできないので、夕方5時以降、市役所が閉まってから実施しています。

他の市民の方や団体の方にご協力いただいてやるキャンペーンも別にありますが、この内容で呼びかけるキャンペーンに関しましては、基本的に職員だけでやっております。ただ今まで「やります」とか「やりました」の告知ですとか、報告はあまりできていなかったところなので、今後そういうのもツイッターとかを使いながらやっていけるといいのかなと、ご指摘を受けて思いました。

【長嶋委員】私は国立駅の改札の外で、ごみ減量課の職員の方が声を出して、雑がみ袋を配っていた状況に2、3回遭遇しました。人通りは多いものの、割とひっそりやっており目立たなかったのも、旗を掲げたりしたらもっと気が付く人はいたのかなと思いました。あとは夜遅くまでやっている職員の方に頭が下がったという思いがありました。

【山崎副会長】ここは厨芥類の水切りの促進ということなので、やはり家庭のお母さん方が苦勞して、水をぎゅっと絞るか絞らないかというのが最も大事な点になるかと思っています。私はダイレクトメールをいつもチェックしているので、よく目にするのが水切りしましょう、というコメントで、いつもそれ見ると、「あ、絞らなきゃ」と意識がやはり出るのも、もうこれはしつこく市民に呼びかけるしかないだろうなというのが一番大きいポイントだと思っています。個々のご家庭の皆さんが、生ごみの水をきゅっとやるかやらないかだけで、この38.5%がぐっと下がるということにつながるはずですが、5年変わっていないです。だから、5年間は何も効果が何も出ていないということだと思

います。

なので、やはりプラスアルファで、何か訴求効果のあるものをもうちょっと取り組んでいかないと抜本的には改善されないのかなというのが感想です。

【長嶋委員】3ページの上のところに、生ごみは一絞りして水切りを行うとあります。一絞りという言葉を使ってみたのが初めてで、ごみカレンダーなどでも水をよく切ってから出してくださいという優しい表現をしてあるので、余白がもしあるのなら、このカレンダーの34ページのところに、生ごみは水をよく切ってから出してくださいと優しい言い方を、この資料の3ページの③のところに生ごみは一絞りして水切りを行う、という記載にしたら良いかと思えます。

【山谷会長】ただ、手でやるのを嫌う人が多いですね。プラスチックの用具で、プラスチックを握るだけで、プラスチックの板が生ごみを挟んで水切りできるというのもありますね。だから、一握りもさることながら、そういう用具があるということも周知できたら良いですね。

【北村委員】私もすごく良いと思います。いろいろなキャンペーンも、言葉ってすごく大事で、何かのその一言でばーっと広がることってすごくありますから、やっぱり水切りという言葉がもう使い古しているという感じがするので、一絞りというのが広まったら良いような気はしました。

【山谷会長】そうですね。100円ショップでも、多分何か優れものが置いてあるだろうと思います。そういうものの写真を少し加えて記載する。できれば手でやっていただき、できない方はこういう器具もありますよ、というような形で紹介するといいかもしれないですね。いろいろな水切りの手法があるじゃないかなと思います。そして、その水切りのメリットについて、ちょっと説明をすると良いですね。

【山岸委員】水切りは分かりますが、水切りをすることによってどんないいことがあるかというのは、私たちにはまだ届いていないです。水切りをみんながすることによって、この厨芥類の38.5%が20%とかになって、そうしたらごみを焼却するお金がこれだけ減って、これだけいいことに回せます、のようなことまで教えていただけると良いと思いました。

【内海委員】どのくらいでという目標は分からなくても、例えば一絞り何ミリリットルとかを計算して、そうしたらこれだけのエネルギーも減るし、運搬のエネルギーも減るし、家電の効率も上がって、本当にWin-Winであるということを、分かりやすく図などでアピールしてもらえると、印象に残るのではないかと思います。

【山谷会長】審議会の評価としては、『水切りの工夫だけじゃなくて、水切りによってどういうメリットが見られるかも行政として情報発信していただきたい』という評価でいかがでしょうか

【山谷会長】④生ごみ処理機器の普及促進について、ご意見をお願いします。

【山岸委員】ホームページを見たら、2022年7月4日で予算がなくなっているということが書いてあって、早過ぎるのではないかと思ったので、もう少し予算がつかないのかなと思いました。

【事務局】これまで予算に収まっていたところもあり、今年度の予算を増やすことまではしませんでした。今年度、これだけ早く予算がなくなってしまったことは想定外でした。来年度はもう少し増やせるかも含めて、少し検討していきたいと思えます。

【内海委員】購入に際しては、限定しない形のものでしたよね。この機種とかそういう指定はないので、ミニ・キエーロ以外にバリエーションが広がっていくというのは、すごい良いかなと思いました。使い勝手とか好みとかって本当に様々なので、自分に合ったものを購入して補助していただくと

いう方向性自体は、私はすごく良いなと思いました

【山谷会長】このモニター購入分について、両方ともだんだん減ってきているという印象を受けます、これは2通りの見方ができるかと思います。1つは、2017年といえば、有料化が実施されたということで、すごくごみの減量に関心が高まってきたというときです。これはピークだと思います。それがだんだんと落ち着いてきて、そしてごみ減量への関心もやや薄れてきているということかなという気がします。もう一つの見方は、ミニ・キエーロの実践に関心を持っている方は、大体もう購入された。もしくはモニターに入られたということなのかということだと思います。

【山崎副会長】いや、情報が届いていないだけだと思います。かなり国立市というのは若い世代の入れ替わりが早いので、たくさん新規に国立市民になっている方のところに情報が届いていないと思われる。

【田中委員】私は富士見台の団地に入っておりますが、やはりこれからやりましょうということで、講演会・講習会を、コロナになってしまったので2年間できていないです。自治会のほうで役員さんも、こんな良いことをやっていたのを知らなかったなんていう方が役員になったものですから、出前講習会をぜひともやっていただきたいという要望がありますので、やはり関心がそういう意味ではどんどん出していったらいいのかなと思います。

【山谷会長】国立市が開発したミニ・キエーロというのは、他の都市で随分取組みが行われていると聞いています。横浜とか千葉、多摩地域でしたら東村山とかですね。他でかなり取組が行われるようになってきているというところはあると思います。ここ国立が発祥地ですので、このミニ・キエーロの普及というのは、やっぱり情報発信をきめ細かに行うことで、ぜひ普及促進に努めていただきたいなと思いますよね。

【北委員】2点、要望と提案があります。1点目は、第1回目の会議でも申したのですが、やはり国立市は堆肥とかガーデニングされる庭がある家も多いと思いますので、まずはやはり市として、約3万数千世帯ある中で、どれほどの世帯がミニ・キエーロにせよ、あとは自己流で家庭の庭に埋めるなど、生ごみ対策を世帯としてどのぐらいされているのかということ把握するアンケートや調査をぜひ実施していただきたいというのが1つあります。

そうじゃないと、キエーロがなくてもできる家庭か、キエーロであったり、生ごみ堆肥処理機がないとできない家庭か、そもそも興味がない家庭か、そういったところの割合が把握できないと、今後の細かい展開ができないのかなというので、やはり潜在的にはどれぐらいの方が対策されているのかを把握する必要があります。

個人的には、先程の水切りの議論をここに出させて、何もできないけれど水切りだけはちゃんとやっているとか、例えば生ごみ乾燥機を使って、ごみは出しているけれど水切りはきちりやっている家庭もカウントの中に入れるというふうにすれば、まず市としてどれぐらい対策がされているのかというのが見えると思うので、ぜひお願いしたいなと思います。

2点目が、実は私はもともと好きで、コンポストもやっております。国立市に来てからミニ・キエーロもモニターで購入してやっておりますが、正直言うと、2人夫婦で毎日料理を作っていると、ミニ・キエーロ1つだけだと賄い切れなくて、もう一つのコンポストと併用してうまく回っているという状況なので、やはりミニ・キエーロを1つだけで本当に回しているのかなというのはちょっと疑問が残るところです。ですので、うまく使われている方とか、他の何かそういうコンポストと併用してうまく使われている方を特集して、そういう方を広報に使っていくというふうにはできないかなという

のが提案です。

直近では、ぜひ国立市報などでもそういううまく実践されている方を特集して紹介したりとか、あとは、ぜひ国立市のホームページとかでも紹介していただきたいです、他にもYouTube、国立市チャンネルとかでも良いと思います。

【山谷会長】それでは、大きく2つですね。ご質問がありましたけれど、まず市民意向ですね。市民アンケートというようなことはされていますでしょうか。有料化のときに大きなアンケート調査をしていますけれど、それ以降大きなアンケート調査ってされていないと思います。これからそういう市民アンケート調査などもぜひおやりになったほうが良いと思います、これからの課題としてになります。

もう一つは、ミニ・キエーロに取り組みられている方の使い方とか工夫とか、そういう情報の流通です。情報交換とか情報の流通、こういうことが必要じゃないかということで、これは前年も昨年もこういう意見がこの審議会に出ておりました。その辺のこともやっぱり課題だろうと思います。

審議会の評価としては、『ミニ・キエーロの市民認知度を高めたための情報発信が必要、またミニ・キエーロ利用者間の情報交換の場づくりにもぜひ取り組んでいただきたい』という評価でいかがでしょうか

【山谷会長】⑤グリーン購入の促進について、ご意見ををお願いします。

【山岸委員】市役所でグリーン購入しているということも、ごみ減量課のこの審議会に来るまで知らなかったの、ぜひ周知も併せて、事業者への取組みも進めてほしいと思いました。

【山谷会長】市でこういう取組みをしているということは、何かの機会に少し書いて、市民の方に伝わるようにはしておいたほうが良いと思います。これを民間の企業にも広げていくというようなことをSDGsの観点からもした方が良くと思います。そして、市民の方もグリーン購入に取り組んでおられる、グリーン商品を取り揃えているお店を利用するというようなことで、情報発信していただくということです。

審議会の評価としては、『グリーン購入に取り組んでいる事業者の情報発信をしていただきたい』という評価でいかがでしょうか

【山谷会長】⑥食品ロス削減の推進について、ご意見ををお願いします。

【内海委員】府中市のあるスーパーはフードドライブになりますが、常設で回収のボックスが置いてあったのに対して、国立のほうは期限付で何日までに募集する、というふうにやっているということに気がついて、やり方が違うのかなと思いました。

【山崎副会長】根本的には、食品ロスの大きな原因は市民の買物スタイルにあります。独り暮らしのお年寄りの方とかとお話をするのですが、結局お金はあるから食べたいものをたくさん買っちゃうとおっしゃいます。結局1度の買物で、あれも食べたい、これも食べたいといってどんどん買っちゃうけど、結局、おはぎはもう賞味期限切れちゃったから捨てましようとなるのが、日常茶飯事だそうです。そういうことを考えると、本当にフードロスというか、食品ロスが実際、環境に対して非常に負荷を与えている、ということをも市民にも理解をしていただかないといけないですし、あとはおはぎも3つ入りじゃなくて1個で買えるようにする必要もあると思います。そういう一人暮らしをされている方が買物しやすいスタイルにだんだんスーパーマーケットや小売業がなっていくとか、やることは



たくさんあると思うので、やはりいろいろな国立市内の食を提供する業者さんとの連携というのは不可欠なんじゃないかなと感じています。

【山谷会長】審議会の評価としては、『可燃ごみの組成調査結果あるいは市民の意識調査、市民意向ということ踏まえて、市民、事業者の食品ロス削減の取組の指針となるような食品ロス削減推進計画を策定していただきたい』という評価でいかがでしょうか

【山谷会長】2) 再使用 リユース、①リサイクルインフォメーション促進について、ご意見を願います。

【山岸委員】リサイクルインフォメーションが減っているのは、何か他で代替があるからというわけじゃなくて、コロナだからちょっと減ってきているという感じでしょうか。

【山谷会長】もうICT化というようなことで、貼り紙利用のインフォメーションということの利用がだんだんと減っているということなんでしょうか。

【山岸委員】ジモティーがすごく伸びてきているというわけでもないということですが、国立市がお勧めしているので、登録して何度かやっていたのですが、やり取りが面倒くさいというのがあり、出品する方は大変というのが感想でした。

なので、行政でフリーマーケットを定期的にしてもらったほうが嬉しいと思いました。ジモティーも使いますが、たくさんものをジモティーで一気に出すと、一つ一ついろいろな人とやり取りが発生します。少し現実的ではないので、毎月1回どこかでフリーマーケットがあると良いです。社協さんでやったりとか、支援センターでやったりしますよね。

そういうことを取りまとめてもらって、「あ、今月の8月何日には支援センターでバザーがある、もう少しだから、溜めておこうかしら」とか。そういうことが、ぱっと見て、ごみ減量課のホームページなりにカレンダーにあるにしてもらったほうが、出しやすいかなと思いました。

【山谷会長】いろいろな選択肢を増やしていこうという、世代別にもニーズは違うと思いますので、幅広くリユースニーズに応えていこうということですね。それから、国立市にはリユース展示館みたいな、リサイクルプラザというものがないということがありますので、それだけにIT化というか、ICTの利用というのは重要になってくるかなというところがあると思いますね。

審議会の評価としては、『民間事業者と連携して、国立市の特性を生かした、新しい企画も工夫していただきたい』という評価でいかがでしょうか

【山谷会長】②フリーマーケット等の支援について、ご意見を願います。

【内海委員】積極的に取り組んでいただければ嬉しいです。

【山岸委員】国立市じゃなくても、立川市でフリーマーケットやっていますとか、近隣の都市、市でやっているものとかの情報をいただければ、近かったら行ったりとかできるので、情報を包括していただきたいなというのがあります。

【山崎副会長】いろいろ難しいとは思いますが、例えばホームページに書き込みと閲覧ができるようにして、そこにフリーマーケット情報を書き込んで、見たい人がそれを見ていけるような情報交換の場があるといいと思います。そういうものがないと実際の支援ができないと思いました。

【山谷会長】審議会の評価としては、『新型コロナウイルス感染拡大によるリユースバザー等の自粛を補う工夫として、民間マッチング事業者の活用について、市民に情報提供してもらいたい』とい

う評価でいかがでしょうか

【山谷会長】③リサイクル家具等販売の推進について、ご意見をお願いします。

特にないようでしたら、審議会の評価としては、『リサイクル自転車、家具の販売を引き続き実施して、国立市のリユース文化をしっかりと根づかせていただきたい』という評価でいかがでしょうか

【山谷会長】3)直す(リペア)①修理、修繕行動の促進について、ご意見をお願いします。

【山崎副会長】ダイレクトメールでもリペアのこと、触れていましたでしょうか。市内にはリペアができるお店がたくさんあります。リペアをしてごみを減らしましょうみたいなことはありましたでしょうか。実際にかばんを直してくれるところ、服を直してくれるところ、靴を直してくれるところがあります。

【事務局】メール配信の中で、例えばリペアのお店がこれだけありますというご案内はできていないです。

【山崎副会長】リペアのお店が国立市にありますだけでもいいと思います。

【山谷会長】「ホームページや広報誌などによるリペア情報の提供をさらに充実させて、国立市伝統のリペア文化をしっかりと根づかせていただきたい」という評価でいかがでしょうか。

それでは、本日の審議を終了させていただきます。

## 2 その他

(1) 次回以降の日程について

第3回 令和4年8月31日(水)・・・施設見学会、審議会

13時から任意で環境センターの見学会を行い、その後14時から審議会を行うことを事務局から説明した。4回目以降の日程は未決とした。

— 了 —